編集後記

2024年日本の年平均気温及び日本近海の年平均海面水温はいずれも，これまでの1位の記録（2023年）を大きく上回って統計開始以降最も高い値となる見込みで，特に東・西日本と沖縄・奄美で記録的な高温となり，夏・秋の2季節連続で平均気温が1位の高温となりました。年降水量も東日本太平洋側と沖縄・奄美でかなり多く豪雨災害に見舞われました。冬も海面水温の上昇により例年以上の降雪量となっており災害発生が懸念され地球温暖化の影響といわれています。

2025年1月には阪神・淡路大震災から30年の節目を迎え，この震災以降30年間だけでも東日本大震災，熊本地震，北海道胆振東部地震，昨年の能登半島地震と巨大地震が発生しました。また，2024年8月と2025年1月に日向灘で地震が発生し，南海トラフ地震の30年間の発生確率が「70～80％」から「80％程度」に引き上げられました。

この様な気候変動による環境影響や地盤災害のリスクを軽減するための国土強靭化の必要性が求められています。「土と岩」73号はインフラのインフラである私たちの地質調査業界が寄与できるような企画で編集いたしました。

特集では，「地震災害から命を守る」をメインテーマに置き，能登半島地震の発災前・発災直後・発災後として，発災前を神奈川大学落合努助教による「オープンデータを活用した地域特性の確認」，発災直後を中部地方整備局防災グループ防災室舟橋優室長補佐による「能登半島におけるTEC-FORCE活動について」，発災後を名古屋大学平山修久准教授による「能登半島地震からみる環境衛生における地震対策」についてそれぞれのご寄稿いただきました。

特別寄稿では，東海大学高橋大介准教授から2019年10月12日に清水港で起こった高潮による冠水の発生メカニズムを調べるとともに高潮と海面水位の上昇の関係についても言及した貴重な研究結果を基にご寄稿していただきました。

散文は，以前にシリーズ化しておりました中部地方の博物館・資料館の紹介を復活させました。中部地方に点在する様々な博物館や資料館を順次，紹介していく企画です。73号は名古屋大学足立守名誉教授から「日本最古の石博物館」の見所や美濃帯の中・古生層についてご寄稿いただきました。

中部地方整備局との意見交換会は，通常どおり全面対面式で開催され，真摯で活発な意見交換が行われました。その後の懇親会においても相互に忌憚のない意見交換ができたのではないかと思います。

その他にも，例年どおり「中部ミニフォーラム」の優秀論文，「常設委員会・WG報告」「現場研修会」の参加報告，「県支部活動報告」を掲載しました。これらの報告が当協会の認知度の更なる向上につながれば幸いです。

最後に，本号への寄稿や連絡会・報告に御協力いただきました方々に改めて感謝申し上げますとともに「土と岩」の更なる充実につなげるために読者アンケートのご回答をお願い申し上げます。また，誌面編集の都合により各執筆者様からの大変貴重な原稿を多少編集させていただいたことを，お詫び申し上げます。

編集委員会

一般社団法人
中部地質調査業協会「土と岩」No.73

2025 年 4 月 1 日発行

発　行：　一般社団法人　中部地質調査業協会
〒461-0004
名古屋市東区葵三丁目 25 番 20 号
ニューコーポ千種橋 403 号
TEL 052-937-4606
FAX 052-937-4607
企　画：　株式会社建通新聞社　中部支社
印　刷：　株式会社 グラックス・マツバラ